



第58号
2012年11月15日
LET九州・沖縄支部事務局発行
〒808-0135 北九州市若松区ひびきの1-1
北九州市立大学 長 加奈子研究室内
TEL 093-695-3249
E-mail: secretariat@jlet-ko.org
編集: 田上優子・松崎 徹・事務局

第42回 LET 九州・沖縄支部研究大会を振り返って

大会実行委員長 竹野 茂 (宮崎公立大学)

2012年6月9日に宮崎公立大学にて「ネットワークを用いた英語学習の可能性と課題」というテーマで開催された第42回九州・沖縄支部研究大会から早くも5ヶ月が経ようとしております。研究大会前の支部だよりでも書かせていただきましたとおり宮崎での開催は17年ぶりでした。17年ぶりということで、大会実行委員長としても意気込んで準備に取りかかったわけですが、大会当日が近づくにつれて段々と不安が増してきたことは否めません。しかし、事務局長をはじめ大会実行委員会のメンバーの献身的な働きにより無事終了して、私としてもほっといたしました。

大津敦史副支部長の流暢な英語による講師紹介に続き、神奈川県立国際言語研究アカデミアのMarcel Van Amelsvoort先生の*Crossing Cultures and Aiding Learning: 105 Years of Treasure Hunting*と題された講演を皮切りに7本の研究発表・実践報告、最後のシンポジウムまで濃い内容の研究大会になったと思います。

ここで講演とシンポジウムについて少し振り返ってみたいと思います。

Amelsvoort先生の講演では、教室内で使えるインターネットリソースの収集と活用について、ローテク環境からハイテク環境まで様々な環境に応じた側面からお話いただきました。英語教員として明日から使えるリソースを

紹介いただいたと考えております。

シンポジウム「ネットワークを用いた英語学習の可能性と課題」では、鈴木利彦先生(早稲田大学)、今岡幸美先生(神田外語大学・神田外語学院)、住政二郎先生(流通科学大学)という若手の優秀なパネリストを関東・関西からお招きし、地元のホープである荒木瑞夫先生(宮崎県立看護大学)がパネリスト兼コーディネータでまとめていただきました。最新の技術や言語理論を駆使しながら、聴衆にとっては分かりやすいプレゼンテーションをしていただいたと思います。ネットワークが当たり前の環境にありながら、実際の教育現場では必ずしも十分に活用できていない現状があります。そのような現状を打開する実践やヒントを紹介していただき、ネットワークの言語教育への可能性を広げていくために、研究者として授業者として大変有意義なディスカッションを展開していただきました。総合司会の石井和仁先生のお言葉に「全国研究大会レベルのシンポジウム」という言葉がありましたが、まさに素晴らしい内容のシンポジウムであったと思います。この講演とシンポジウムにつきましては初の試みとしてUstreamでのライブ配信を試みました。

その他7本の研究発表・実践報告について詳細をここで述べることはできないのは残念ですが、いずれ劣らぬ素晴らしい発表であったと考えております。それぞれの発表の質の高さが

LET の学会としての存在意義を高めるものと確信いたしました研究大会だと思います。

協賛いただいた企業の皆様、参加していただいたすべての方々、会場関係者職員の皆様ありがとうございました。また、とりわけ尽力していただきました横山彰三先生（宮崎大学）、縄田義直先生（航空大学校）、川北直子先生（宮崎県立看護大学）、白坂佳代先生（宮崎県立看護大学）、荒木瑞夫先生（宮崎看護大学）以上5名の実行委員の方々には大変世話になりました。お名前を挙げさせていただき感謝の意を表したいと存じます。

研究や教育といった個の地道な営みを持ち寄り、研究大会という場で多くの人とシェアしながら新たな取り組みとして作り上げる楽しみを感じながら大役を務めることができました

たことは何よりの喜びであり、今後の糧となるものとなりました。皆様本当にありがとうございました。まだまだこれから研究大会は続いていきます。次回は西南学院大学にところを変え、新しい知見を持ち寄り益々発展していくことと期待しております。



第42回九州・沖縄支部研究大会を無事終了して

大津敦史（福岡大学）

2012年6月9日、前日までの雨模様を忘れさせるような素晴らしい天気恵まれ、第42回九州・沖縄支部研究大会が、宮崎公立大学を会場として開催された。今大会のテーマは、「ネットワークを用いた英語学習の可能性と課題」という、近年LETが深めてきた究の基本に立ち返り、今一度その役割を確認する内容であった。10時30分からの受付・登録の後、今大会の実行委員長でもある竹野茂先生を講師として、「Ustreamの効果的な活用法」と題するワークショップが開催された。Ustreamという動画配信をどのようにして手軽に実現できるか、またそれを英語教育にどのように利用するかについて大変有益な紹介をしていただいた。ちなみに、このワークショップならびに午後から予定されていた講演とシンポジウムは、このUstreamを用いて実験的にライブ配信された。仕掛け人はもちろん竹野先生であった。

開会式を挟んで13時10分より、本学会メールマガジンの連載記事Treasure Huntで有名なあのMarcel Van Amelsvoort先生（神奈川県立国際言語文化アカデミア）をお迎えして、Crossing Cultures and Aiding Learning: 105 Years of Treasure Huntingと題して講演を頂戴した。マルセル先生の長い経験から、学習者の4技能の育成に効果的と思われる様々なサイトを簡潔な内容説明と共に紹介していただいた。私個人、このようなサイトはよく知っているつもりでいたが、実際には紹介されたサイトの半分も知らなかった。

支部総会を挟んで14時40分より、3教室に分かれて7つの研究発表と実践報告が繰り広げられた。その中には、水野邦太郎先生（福岡県立大学）を研究代表者とする2010年度支部研究プロジェクト、また冬野美晴先生（西南学院大学）を代表者とする2011年度支部研究プロジ

エクトの研究報告があり、多くの聴衆の関心を集めていた。今後この支部研究プロジェクトにより多くの応募があり、支部内での研究の気運が一層高まることを祈るばかりである。

本大会の極めつけは、本大会のテーマがそのまま演題となったシンポジウムであった。パネリスト兼コーディネータは荒木瑞夫先生（宮崎県立看護大学）、パネリストとして住政二郎先生（流通科学大学）、鈴木利彦先生（早稲田大学）、今岡幸美先生（神田外語大学・神田外語学院）の3人の先生方にご登壇いただいた。それぞれの発表の詳細な内容については、発表要項と当日配布資料に譲るが、荒木先生にはインターネットを介して複数の国との間でおこなったライティング交流 **Online Cultural Exchange Program** について、住先生には授業内外での英語学習を統合する試みについて、その背景となる理論を交えながらお話しいただいた。鈴木先生からは国際コミュニケーション教育における ICT 活用の実践報告として、早稲田大学遠隔教育センターが運営する **Cross-Cultural Distance Learning** と **LMS の Course N@vi** について紹介いただき、また今岡先生には「セカンドライフ」を利用して独自に構築された仮想世界利用の実演型英会話授業 **Hybrid English Learning Program** についてお話しいただいた。理論と実践の両面で、目か

ら鱗が落ちるような非常に有益な体験であった。

事務局発表によれば、参加者総数は 60 名、企業 11 社より展示協賛を賜った。ここに改めて感謝を申し述べたい。

最後になるが、第 42 回支部研究大会をこのように盛会のうちに無事終了できたのも、実行委員長である竹野先生、シンポジウムを入念にコーディネートしていただいた荒木先生、このお2人に負うところ大であった。心からお礼を申し述べる次第である。



第 52 回 LET 全国大会報告

荒木瑞夫（宮崎県立看護大学）

本格的な夏の日が眩しい神戸・岡本の甲南大学にて、8 月 7 日から 9 日にかけて、第 52 回全国大会が開かれた（大会 HP によると参加人数 562 名とのことである）。

今年は何といっても、安浪誠祐先生（熊本大学）の LET 学会賞の受賞からお伝えしなければならない。ご勤務校での CALL を含めての多

彩な英語教育実践、VOA などを活用した様々な英語教材の作成、ESP やコーパス分野での研究などが総合的に評価されての受賞だった。また、先生はいまや LMS（**Learning Management System**）のトップブランドと言ってもよい Moodle の早い段階での紹介者でもあった。筆者もその恩恵を受けた一人である。

大会2日目の懇親会の最初に、先生の受賞の言葉を頂く機会があった。穏やかな語り口の中でも、「初めて目にした Blackboard（注：これも LMS の1つ）を使って3日で教材を作成しました」というさり気ない逸話に、先生の目の前の課題に対する見通しの確かさ、新しい技術への評価の的確さ、お仕事の際の集中力などを改めて想起した。その晩は、島谷浩支部長を始め、連絡が付いた九州・沖縄支部のメンバーで安浪先生を囲み、三宮に出かけて祝杯をあげた。

さて、大会テーマは「外国語教育における学習・指導・評価の最前線」。基調講演は、Norman Segalowitz (Concordia University)、山森光陽 (国立教育政策研究所)、荘島宏二郎 (大学入試センター・東京工業大学大学院) のお三方だった (敬称略)。Segalowitz 先生が「学習」、山森先生が「指導」、荘島先生が「評価」ということでの人選とのこと。あいにく便の都合で荘島先生のお話は聞けなかったが、伺うことができたお二人のお話は初めてで、新鮮に聞かせて頂いた。

九州・沖縄支部の会員からの発表は5件あった。昨年より多く、心強く感じた。時間の関係で私が聞いたのは染矢正一 (大分県立芸術文化短期大学) “Teaching English with a Dash of Humor”、中野秀子 (九州女子大学)・夏目季代久 (九州工業大学大学院) 「Beat 音のある英語リズム教材による英語リズム習得と脳波変化」、ペニンントン 和雅子 (西南学院大学) “Learner training based on critical thinking theory: Developing autonomous learners” の3件だった (敬称略)。染矢先生は持ち前のユーモアを

惜し気もなく披露され、中野先生らのご発表はご自身の博士論文の研究とすることで非常に充実したご発表であり、ペニンントン先生のご発表は critical thinking を英語教育にとり入れるという先駆的な試みの紹介だった。その他に志水俊広先生 (九州大学) が「多様な大学環境における英語 e ラーニング：ラーニングマネジメントの違いがもたらすもの」という名のシンポジウムでパネリストとして、また奥田裕司先生 (福岡大学) が賛助会員2名の方と「デジタル拡張型英語テキストの開発―授業内環境の調和構築を目指して―」というタイトルでご発表された。いずれも注目度が高く、会場が盛り上がったと伺った。

その他の心に留まった点としては、来場者に「託児コーナーを設置すべきか」のアンケートが行われていた。他学会でも同種の動きが増えており、導入の方向性で進めて頂ければと思う。

ところで、2014年には、全国大会が福岡にやってくる。毎回、LETの全国大会は支部のカラーが際立っているように思うが、今度の福岡大学での大会では、どのような支部のカラーが出せるだろうか。ご発表も含め、今後ますます支部会員の皆様の積極的なご参加とご協力をぜひお願いいたします。



研究発表の様子 (染谷正一先生)

学会賞を受賞して

安浪誠祐（熊本大学）

この度、2012 年度外国語教育メディア学会賞（授業実践賞）を頂き、誠にありがとうございます。ご推薦頂きました九州・沖縄支部長の島谷浩先生を始め、審査頂きました理事の皆様、そして学会会員の皆様に心より感謝申し上げます。表彰式では、学会賞選考委員会委員長の久保田章先生より、授賞理由などについて、身に余るお言葉を頂きありがとうございました。

受賞対象業績は、2003 年度から開始して、現在も継続している「ICT を活用した英語学習支援」です。この ICT を活用した英語学習支援では、CALL 教材を用いた授業の学習効果・成果を確認するために、ウェブ上の素材を基に副教材として開発したオンライン教材を LMS システム Blackboard（旧名称：WebCT）上で学生に提供しています。これらの実践および成果については学会などで可能な限り数多く発表してきました。

ICT を活用した学習支援を始める前から、CALL 教材を用いた授業の中で、VOA の記事が何らかの形で利用できないものかと考えておりました。パソコン室で授業を行う場合には、紙ベースの教科書ではなく、オンラインで教材が展開できて、成績処理や結果表示なども瞬時にできる仕組みが必要と考えました。そこで、当時、カナダで開発されて米国を始め英語圏の大学で運用が開始されていた WebCT に目を付けました。WebCT が日本に紹介された当初は、WebCT 関係の研究会に参加してもほとんどが情報系の先生方ばかりで、英語の教員は私一人しかいませんでした。勤務校の熊本大学に WebCT を導入するために、私自身で「WebCT を活用した英

語学習支援システム構築」というプロジェクトで学長裁量経費に応募しましたが、幸運にも 1 年間に限って採択され、WebCT が運用できるようになりました。しかし、WebCT の使い方を熟知している方が身近にいらっしゃらなかったため、独力でシステム導入から 1 週間以内に授業で運用できるようにしなければならぬ状況でした。これはその後のシステム運用や授業実践を行う上でとても良い経験となりました。翌 2004 年度からは情報基盤センターが WebCT を管理して、全学的に運用できるようになりました。

当初は、WebCT を用いた英語学習支援は、私のクラスのみで行っていましたが、6 年前からは他の教員が担当する CALL 教材を用いたクラス（前学期・後学期合計で 22 クラス）でも、オンライン教材などが利用されています。

WebCT で利用している VOA の記事は public domain ですが、念のため VOA へ連絡を取り、医学部のクラスでは Standard English の中の健康に関するトピックを、それ以外の学部のクラスでは Special English の中の健康と環境に関するトピックを、オンライン教材の素材として使用しています。教材コンテンツは使いまわしをすることなく、毎学期新しいものを作成することにしています。ここで開発したオンライン教材を基にテキストとしても出版していますが、お陰様で、現在 7 冊目となっています。

また、2004 年度からは高等学校に対する Moodle を用いた英語学習支援を開始し、私が所有する Moodle サーバーや学長裁量経費によって契約した学外のホスティ

ングサービスを使用して、高大連携や大学間連携に発展させました。

現在、巷には様々な形態の ICT が溢れていますが、ICT に操られることなく、教員が主体的に ICT を活用すべきではないかと、私自身も肝に銘じています。この度の受賞を契機に、ICT を活用した英語学習支援を更に発展させたいと考えています。今後ともどうぞよろしくお願い致します。



表彰式にて（8月8日、左より竹内理会長、安浪先生、島谷支部長）

LET2012 年度 理事会報告

竹野 茂（宮崎公立大学）

2012年8月7日に甲南大学岡本キャンパスにて、LET 全国研究大会に先立って開催された理事会の報告をさせていただきます。その他を含めまして 12 件の審議事項、6 件の報告事項について話し合われました。

審議に先立ちまして IALLT 50 周年記念大会(FLEAT VI)共催について説明されるため参加予定であった Tom Hammond 先生のオブザーバー参加はご母堂の急逝にともない取り止めとなったとの報告がありました。

12 件の審議内容については以下のとおりです。

1) FLEAT VI共催について（会長から）

・ IALLT会長から2015年に8/10-15日 Harvard大学にて開催予定で、IALLT設立 50周年記念となります。LETの共催の件について承認されました。

2) 本部サーバ管理外部委託について

（本部事務局長から）

委託業者は(有)アゼットとし、「バックアップあり」の料金で同社に委託することを理事会として承認されました。全国大会の発表申し込み、発表要項原稿提出等もこのシステムで行える旨の説明があり、今後の使用に関しても同意が得られました。

3) IDシステム委員会について（本部事務局長から）

・ サーバ外部委託に伴い委員会を解散とする提案がなされ、理事会として原案通り了承されました。

・ 会長から、吉成理事の本学会ウェブ運営に対する長年の多大な貢献に関して、学会としての謝意が表明されました。

4) 関連学会との連携について（本部事務局長から）

・教育学関連学会連絡協議会(仮称)結成準備会について、参加することが承認されました。準備会への参加者については会長に一任することとなりました。

・日本e-Learning学会講演会協賛について別紙に基づいて説明があり、協賛することが理事会として承認されました。

・言語系学会連合加盟継続について加盟を継続するかどうかを審議しました。会長から、これまでの本学会連合の運営方法について LET として申し入れを行った上で、理事会として今年度は継続を了承しました。また、JACET 等の他学会と連携して改善を働きかけ、今後改善が行われない場合は、脱退も視野に入りたいとの補足もありました。

5) 支部提案事項について(提案支部から)支部長連絡会にて調整が行われており、別紙追加資料に基づいて会長より個別に説明がなされました。

・関東支部

退会方法のホームページ記載は、語句を調整の上、早急に実施することが了承されました。

除名者復権の案件は、2010年度第3回支部長連絡会の議案として既に出されていたものであるが、理事会として承認しました。文中の「過去2年分の年会費」とは、除名時の年会費に基づくものであること、「その年度」は復帰する時点での会員ステータスに基づく年会費とすることが確認されました。また、過去2年分の年会費は、当時所属していた支部に対して支払われることも確認されました。会員の休会の制度化については、システム変更等が必要なことから、今後様子を見ることとなりました。

・中部支部

学生会員の会員期間を現行の2年から1年に変更する件について、会員(個人、学生)には3月にメールを送って確認する方向で提案がなされ了承された。

6) 全国大会会費徴収と事前登録制について(本部事務局長から)

別紙追加資料に基づいてWG検討内容の説明あり。

WGからの答申結果を受けて、大会参加費については、来年度は徴収しないことが提案されました。なお、それ以降の年度については、今後の支部長連絡会議で継続審議すること、事前登録制、支部受付設置についても、今後、支部長連絡会議で検討することがあわせて提案されました。

審議の結果、これを理事会として承認しました。

7) 編集委員会提案(機関誌編集委員会事務局から)

・会員外の査読依頼について

(a) 機関誌編集委員長が嘱託を依頼 (b) 理事会で報告 (c) 謝礼はなしの3点を前提として会員外の査読者を認める件について、理事会として承認しました。

・編集規定改訂について

昨年来の査読審査方法変更に合わせて編集規定の変更について、理事会として承認しました。

なお、水本担当本部幹事から編集規定第5条を、「...編集委員会規定第2項で定める査読者...」を「...編集委員会内規第3条2項で定める査読者...」と修正したいとの提案がありましたが、査読者の選出についての文言は編集委員会内規ではなく編集規定に書

くべきではないかとの意見および内規の内容変更については、報告事項ではなく審議事項にすべきで、査読者の自動継続についても問題があるのではないかと、との意見が出され、審議いたしました。

その結果、これについては、過去の議事録でこれまでの議論の方向性を確認すること、ならびにその結果を受けて、必要があれば、支部長連絡会議において議論することで了解されました。

8) 2011年度本部事業報告について(本部事務局長から)

9) 2011年度本部決算(案)について(本部事務局長から)

資料に基づいて説明があり、これを受けて、8), 9)を理事会として承認しました。

10) 2012 年度本部事業計画について(本部事務局長から)

11) 2012 年度本部予算(案)について(本部事務局長から)

議案10), 11)について資料に基づいて説明があり、若干の修正を施した上で、理事会として、これを了承しました。

12) その他 ・ 非会員の本部機関誌の購読の件について

来年度からは非会員(書店取り次ぎ)には販売しないことを了承しました(必要な場合は団体・個人会員手続きを取って頂く)。なお、問い合わせに対しては、バックナンバーは発行1年後から学会HPやCiNiiで確認できることも同時に伝えることで同意が得られました。

6件の報告事項については、以下のとおりです。

1) 本部報告

・各支部選出本部役員について

・2012年度賛助会員について

・2012年度会員数について

・Newsletter No.93発行

・会費請求振込用紙レイアウトの一部変更
上記事項について、各担当者から資料に基づいて説明がなされた。

2) 各種委員会からの報告

・機関誌編集委員会(機関誌編集委員長から)

資料に基づいて説明がなされ、編集規定と編集員会内規の一部変更を行うことが報告されました。

なお、査読の匿名性と中立性を高めるため、水本担当本部幹事より、査読者の氏名は今後各支部のHP(役員リスト)には掲載しないようにして頂きたいとの依頼があり、これを認めました。

・学会賞選考委員会(学会賞選考委員長から)

資料に基づき、選考経緯の報告があり、授業実践賞を1件選定した。

会長から、理事各位に、今後はさらに積極的に推薦をするよう依頼がありました。また、未だ受賞者が出ていない論文賞などにも、推薦をしていただきたい旨、依頼がありました。

・メルマガ編集委員会(編集委員長から)
資料に基づいて報告されました。

・国際交流委員会(国際交流委員長から)
追加資料に基づいて説明があり、委員の変更(土屋武久→Marcel Van Amelsvoort)が報告されました。

3) 各支部報告(各支部長から)

・2011年度各支部事業報告・決算について

- ・ 2012年度各支部事業計画・予算について

資料の内容について確認されました。

- 4) 来年度の全国大会開催予定(担当支部、日程)について (関東支部長から)

場所:文京学院大学(東京都文京区) 日

時:2013年 8/7-9日に開催予定であることが報告されました。

- 5) 今後の全国大会開催について (会長から)

・ 全国英語教育学会との日程調整について説明があり、なるべく早い時期に日程を決定し、交渉した方がよいため、できるだけ早く(2年前の3月頃までに)日程と場所を決定頂きたいとの要請がありました。

・ 本部事務局長から、資料に基づき諸学会との連携について説明がありました。また、ELECポータルサイトについては利用依頼があったとの報告がありました。

6. ネット稟議追認事項(会長から)

- 1) LET 賞の選考について

- 2) オブザーバーの陪席について

- ・ 2014年度の全国大会は福岡大学で8/4-6日に開催予定であることが報告されました。

これと関連して、本部事務局長から、各支部に過去の全国大会開催情報、ならびに大会要項があれば、本部事務局に送って頂きたいとの依頼がありました。

また、今年度より実施した IALLT 会員の発表受付および英語セッションの実施についても、継続して行うよう要請があり、これを認めました。

- 6) その他

- 3) 学会ウェブページ外部委託の方向性および手順について

- 4) 教育学に関する学会ネットワークからの提案

上記4件については、ネット稟議の際に異議が無かったので、承認されたものとしたいとの提案があり、これを認めました。

2012 年度支部総会ならびに全国研究大会の準備について

LET 九州・沖縄支部長
島 谷 浩

2012 年度支部総会について

第 42 回支部研究大会当日に開催された支部総会の議題と報告について、ご報告いたします。

<議題>

- (1) 2011 年度支部事業報告・支部決算報告書について

2011 年度支部事業報告と支部決算報告書が報告され承認されました。詳細は、資料①と資料②をご覧ください。

(2) 2012 年度支部事業計画案・支部予算案について

2012 年度支部事業計画案と支部予算案が提案され承認されました。詳細は、資料③と資料④をご覧ください。

(3) 2014 年度 LET 全国研究大会について

2014 年度の LET 全国研究大会は、本支部が担当することになっておりますが、その期日と会場が次のように提案され、承認されました。

期日：2014 年 8 月 4 日（月）～8 月 6 日（水）

会場：福岡大学

< 報告 >

(1) 2012 年度～2013 年度の支部役員について

2012 年度～2013 年度の支部役員につきましては、昨年度末に支部メーリングリストにおいて承認いただいた役員リスト(資料⑤) が報告されました。

(2) 第 43 回支部研究大会の開催地について

来年の第 43 回支部研究大会は、西南学院大学において開催されること、また、大会実行委員長は、川瀬義清先生（西南学院大学）にご担当いただくことが報告されました。

＜九州・沖縄支部 2011 年度事業報告＞

2011 年

4 月 1 日 LET 九州・沖縄支部第 7 回研究プロジェクトチーム（新規）

テーマ：「英語母語話者と日本人学習者における受動文の用法比較－認知言語学と英語教育学的観点から－」

代表者：冬野美晴（西南学院大学大学院生）

4 月 30 日 LET 九州・沖縄支部運営委員会（第 1 回）

5 月 15 日 LET 九州・沖縄支部「支部だより」（電子版）第 55 号発行

6 月 4 日 LET 九州・沖縄支部評議員会（筑紫女学園大学）

6 月 4 日 LET 九州・沖縄支部総会（筑紫女学園大学）

6 月 4 日 LET 九州・沖縄支部 第 41 回支部研究大会（筑紫女学園大学）

大会テーマ：「こうすればできる！小学校外国語活動」

＜講演＞ 講演者：金森 強（松山大学）

題 目：『これで大丈夫！小学校「外国語活動」－より良い実施のための留意点』

＜ワークショップ＞

『ICT 活用で、頭が動く、心が動く外国語活動を』

前田陽子（熊本大学教育学部附属小学校）

『児童の心を育む外国語活動とは？－「英語ノート＋アルファ」』

高橋美由紀（愛知教育大学）

＜シンポジウム＞

『こうすればできる！小学校外国語活動』

コーディネーター：高橋美由紀（愛知教育大学）

コメンテーター：金森 強（松山大学）

パネリスト：池浦真理（元福岡市立小学校教諭・英語で楽しむ紙芝居研究会代表）

橋口公一（福岡教育事務所教育指導室・主任指導主事）

前田陽子（熊本大学教育学部附属小学校）

7 月 2 日 LET 九州・沖縄支部, JACET 九州・沖縄支部合同春季学術講演会

場 所：西南学院大学 2 号館 8 階 大会議室
講演者：Michael Byram (Professor Emeritus, University of Durham)
演 題：The Common (European) Framework of Reference—Teaching
foreign languages, plurilingualism and intercultural
competence

8 月 6 日 LET 支部長連絡会・各種委員会・理事会

8 月 6 日～8 月 8 日 第 51 回全国研究大会
会 場：名古屋学院大学白鳥キャンパス
大会テーマ：「外国語学習での自律性と継続性」

10 月 8 日 LET 九州・沖縄支部運営委員会（第 2 回）

11 月 28 日 LET 九州・沖縄支部「支部だより」（電子版）第 56 号発行

12 月 3 日 LET 九州・沖縄支部運営委員会（第 3 回）

12 月 3 日 秋季学術講演会
場所：西南学院大学 2 号館 8 階 大会議室
講演者：染矢正一先生（大分県立芸術文化短期大学）
演題：教材開発の実践と作成手順

2011年度 外国語教育メディア学会九州・沖縄支部 決算報告書

2012年3月31日

収入の部

項 目	決算額 (円)	内 訳	予算 (円)	差 額
前年度繰越金	485,051		485,051	0
学会費	717,000	個人会員 @6,000 ×106件 [2件(2006), 1件 (2007), 1件 (2008),1件(2009),1件(2010),112件 (2011)] 636,000 団体会員 @6,000 ×12件 72,000 学生会員 @3,000 ×3件 [3件 (2011)] 9,000	723,000	▲ 6,000
雑収入	635,037	1. 展示協賛金 260,000 支部大会展示 (13社) 2. 広告掲載料 145,000 支部紀要第11号広告協賛, 支部紀要第12号広告協賛 (1社のみ先払い) 3. 寄付金その他 152,500 支部大会開催補助 (筑紫女学園, 152,000円), 交通費補助辞退 (500円) 4. 紀要投稿料 58,000 第11号紀要投稿料 5. 学会当日会員資料代 19,500 第41回支部研究大会 (1,000円×17名, 500円×5名) 6. 利息 37	508,000 500,000 1,000 100,000 10,000 -	127,037 ▲ 95,000 151,500 ▲ 42,000 9,500 37
支部積立金より繰入	0	支部積立金より繰入	0	0
合 計	1,837,088		1,716,051	121,037

支出の部

項 目	決算額 (円)	内 訳	予算 (円)	差 額
支部大会開催費	406,918	第41回支部研究大会開催費 (講師謝礼, 講師旅費・宿泊費, アルバイト代, ワークショップ資材代, 宅配送料, 実行員お弁当代, 懇親会補助, 講師懇親会会費負担分, 支部研究大会準備金)	250,000	▲ 156,918
人件費	4,800	事務局アルバイト代	10,000	5,200
印刷費	232,760	支部紀要第11号印刷費 (2010年度分) 162,000円, 第41回支部研究大会発表要綱印刷費・各種委員会資料印刷等 (2011年度分) 70,760円	400,000	167,240
通信費	106,865	送料	100,000	▲ 6,865
会議費	84,935	支部運営委員会, 紀要編集委員会, 支部大会実行委員会等の開催に伴う経費	100,000	15,065
謝礼費	48,000	事務局謝礼	48,000	0
旅費	174,530	支部内理事, 運営委員会参加補助費として	200,000	25,470
事務局費	39,379	宛名ラベル, 領収書, 封筒, PPC用紙, 文具等	50,000	10,621
支部分担金	147,600	984,000円×15%	147,600	0
学術講演会	59,000	春季 (JACET九州・沖縄支部との共催) 24,000円, 秋季 35,000円	60,000	1,000
支部研究プロジェクト補助費	130,000	2011-2012年度支部研究プロジェクト (代表: 冬野美晴)	130,000	0
会費徴収委託費	13,981		62,500	48,519
雑費	3,570	送金手数料	50,000	46,430
支部積立金	100,000	(2012年3月31日付支部積立金残高: 2,931,131円)	100,000	0
予備費	0		7,951	7,951
次年度繰越金	284,750		0	▲ 284,750
合 計	1,837,088		1,716,051	▲ 121,037

以上、報告します。

外国語教育メディア学会九州・沖縄支部

事務局長 長 加奈子



以上、相違ありません。

会計監査 林 千晶



会計監査 土持 かおり



2012 年度～2013 年度 LET 九州・沖縄支部役員

名誉支部長

池浦貞彦（福岡教育大学名誉教授）

支部長

島谷 浩（熊本大学）

副支部長

石井和仁（福岡大学）・大津敦史（福岡大学）

事務局長

長 加奈子（北九州市立大学）

理事

石井和仁（福岡大学）・島谷 浩（熊本大学）・大津敦史（福岡大学）・竹野 茂（宮崎公立大学）

会計監査

林 千晶（福岡女学院大学）・土持かおり（鹿児島県立短期大学）

運営委員（50 音順）20 名

荒木瑞夫（宮崎県立看護大学）・石井和仁（福岡大学）・大藺修一（九州産業大学）・大津敦史（福岡大学）柿元悦子（九州産業大学）・川尻 徳（久留米工業大学非常勤）・木下正義（西南学院大学非常勤）島谷 浩（熊本大学）・田口 純（筑紫女学園大学）・武井俊詳（西南学院大学）・竹野 茂（宮崎公立大学）田上優子（福岡女子大学）・長 加奈子（北九州市立大学）・中島 亨（福岡教育大学）・中野秀子（九州女子大学）仲山雄二（大津高等学校）・古村由美子（九州大学）・松崎 徹（筑紫女学園大学）・山内ひさ子（長崎県立大学）米岡ジュリ（熊本学園大学）

評議員（50 音順）32 名 *は運営委員を兼ねる

荒木瑞夫*（宮崎県立看護大学）・石井和仁*（福岡大学）・綱 智子（福岡教育大学非常勤）・大藺修一*（九州産業大学）大津敦史*（福岡大学）・奥田裕司（福岡大学）・柿元悦子*（九州産業大学）・柏木哲也（北九州市立大学）川尻 徳*（久留米工業大学非常勤）・木下正義*（西南学院大学非常勤）・坂元真理子*（鹿児島工業高等専門学校）・島谷 浩*（熊本大学）・染矢正一（大分県立芸術文化短期大学）・田口 純*（筑紫女学園大学）田上優子*（福岡女子大学）・武井俊詳

（西南学院大学）・竹野 茂（宮崎公立大学）・長 加奈子*（北九州市立大学）東矢光代（琉球大学）・中島 亨*（福岡教育大学）・中野秀子*（九州女子大学）・仲山雄二*（大津高等学校）林 日出男（熊本学園大学）・樋口晶彦（鹿児島大学）・古村由美子*（九州大学）・ペニンントン and 雅子（西南学院大学）松崎 徹（筑紫女学園大学）・水野邦太郎（福岡県立大学）・安浪誠祐（熊本大学）・山内ひさ子*（長崎県立大学）與古光 宏（九州産業大学）・米岡ジュリ*（熊本学園大学）

学会誌編集委員

樋口晶彦（鹿児島大学）・林日出男（熊本学園大学）・折田 充（熊本大学）

国際交流委員

染矢正一（大分県立芸術文化短期大学）

学会賞選考委員

山内ひさ子（長崎県立大学）

メールマガジン担当委員

田口 純（筑紫女学園大学）・古村由美子（九州大学）

学会誌査読専門委員

荒木瑞夫（宮崎県立看護大学）・東矢光代（琉球大学）・安浪誠祐（熊本大学）・横山彰三（宮崎大学）米岡ジュリ（熊本学園大学）

支部紀要編集委員

中野秀子（九州女子大学）・金岡正夫（鹿児島大学）ペニンントン and 雅子（西南学院大学）・森礼子（福岡県立大学）米岡ジュリ（熊本学園大学）

「支部だより」編集委員

田上優子（福岡女子大学）・松崎 徹（筑紫女学園大学）・事務局

＜九州・沖縄支部 2012 年度事業計画＞

2012 年

1 月 28 日 LET 九州・沖縄支部運営委員会（第 4 回）

1 月 29 日 支部長連絡会

場所：大阪ガーデンパレス 405 号室

3 月 1 日 LET 九州・沖縄支部紀要第 12 号発行

3 月 9 日 LET 九州・沖縄支部理事会

3 月 16 日 LET 九州・沖縄支部運営委員会（第 5 回）

2012 年

4 月 21 日 LET 九州・沖縄支部運営委員会（第 1 回）

5 月 15 日 LET 九州・沖縄支部「支部だより」（電子版）第 57 号発行

6 月 9 日 LET 九州・沖縄支部評議員会（宮崎公立大学）

6 月 9 日 LET 九州・沖縄支部総会（宮崎公立大学）

6 月 9 日 LET 九州・沖縄支部 第 42 回支部研究大会（宮崎公立大学）

大会テーマ：「ネットワークを用いた英語学習の可能性と課題」

＜講演＞ 講演者：Marcel Van Amelsvoort 先生

（神奈川県立国際言語文化アカデミア）

題目：*Crossing Cultures and Aiding Learning: 105 Years of
Treasure Hunting*

＜ワークショップ＞

『Ustream の効果的な活用法』 竹野 茂先生（宮崎公立大学）

＜シンポジウム＞

『ネットワークを用いた英語学習の可能性と課題』

コーディネーター・パネリスト：

荒木 瑞夫 先生（宮崎県立看護大学）

『インターネットで宮崎と海外をつなぐ——看護大学生の

国際ライティング交流』

パネリスト：

住 政二郎 先生（流通科学大学）

『授業内外の外国語学習を統合する試み』

鈴木 利彦 先生（早稲田大学）

『国際コミュニケーション教育における ICT 活用の実践と課題』

今岡 幸美 先生（神田外国語大学・神田外語学院）

『「仮想世界を利用した実演型英会話授業」の実施』

7 月中旬 春季学術講演会

8 月 7 日 LET 支部長連絡会・各種委員会・理事会

8 月 7 日～8 月 9 日 第 52 回全国研究大会

会 場：甲南大学

大会テーマ：「外国語教育における学習・指導・評価の最前線」

9 月下旬 LET 九州・沖縄支部運営委員会（第 2 回）

11 月 1 日 LET 九州・沖縄支部「支部だより」（電子版）第 58 号発行

11 月中旬 LET 九州・沖縄支部運営委員会（第 3 回）

11 月中旬 秋季学術講演会

2013 年

1 月上旬 LET 九州・沖縄支部運営委員会（第 4 回）

3 月 1 日 LET 九州・沖縄支部紀要第 13 号発行

3 月下旬 LET 九州・沖縄支部運営委員会（第 5 回）

※LET 九州・沖縄支部理事会，運営委員会，研究大会実行委員会，紀要編集委員会，各種研究会，「支部だより」編集委員会，研究プロジェクトは必要に応じて随時開催。

2012年度 外国語教育メディア学会九州・沖縄支部 予算

2012年4月1日

収入の部

項 目	予算額 (円)	備 考	前年度予算
前年度繰越金	284,750		485,051
学会費	744,000	個人会員 @6,000 ×110件 660,000	723,000
		学生会員 @3,000 ×4件 12,000	
		団体会員 @6,000 ×12件 72,000	
雑収入	611,000		508,000
		内訳 1. 展示協賛金 200,000 第42回支部研究大会展示協賛	
		2. 広告掲載料 300,000 支部紀要第12号・第13号への広告掲載料	
		3. 寄付金その他 1,000 寄付, 利息等	
		4. 紀要投稿料 100,000 支部紀要第12号・第13号への投稿料	
		5. 学会当日会費 10,000 第42回支部研究大会における資料代	
支部積立金より繰入	0	(2012年3月31日付支部積立金残高: 2,931,131円)	0
合 計	1,639,750		1,716,051

支出の部

項 目	予算額	備 考	前年度予算
支部大会開催費	428,600	第42回支部研究大会予算 (大会準備金, 講師謝礼, 講師旅費, アルバイト人件費, 懇親会費補助等)	250,000
人件費	10,000	事務局アルバイト	10,000
印刷費	400,000	支部紀要第12号, 第13号, 第42回支部研究大会プログラム・発表要綱等の印刷	400,000
通信費	100,000	送料	100,000
会議費	100,000	支部運営委員会, 紀要編集委員会, 支部大会実行委員会, 評議員会等の開催に伴う経費	100,000
謝礼費	48,000	事務局謝礼	48,000
旅費	200,000	支部運営委員会, 紀要編集委員会等への参加補助	200,000
事務局費	30,000	宛名ラベル, 領収書, 文具等	50,000
学術講演会	60,000	春季・秋季の2回	60,000
支部負担金	107,550	本部への支払い (0.15 ×717,000)	147,600
支部研究プロジェクト補助費	0		130,000
会費徴収委託費	62,500	1人500円×125名	62,500
雑費	10,000	振り込み手数料等	50,000
支部積立金	80,000		100,000
支部運営予備費	3,100		7,951
合 計	1,639,750		1,716,051

外国語教育メディア学会九州・沖縄支部

事務局長 長 加奈子

全国研究大会の準備について

支部総会において、2014 年度 LET 全国研究大会の開催日程と会場校が承認されたことを受けて、第 2 回支部運営委員会（10 月 13 日開催）において、全国研究大会実行委員会についての話し合いを行いました。全国大会実行委員長には、前支部長の大津敦史先生（福岡大学）に、ご担当いただくことになりました。全国大会事務局長は、田上優子先生（福岡女子大学）にお願いす

ることになりました。

大津大会実行委員長と田上大会事務局長を中心に、これから全国大会の準備が進められていくこととなりますが、支部の皆様には、さまざまな形でご協力をお願いすることがあるかと思います。大会成功のためには、支部全体で、準備に取り組む必要があるかと思います。ご協力のほど、どうぞよろしくお願いいたします。

* ~ * ~ * ~ 事務局からのお知らせ ~ * ~ * ~ *

【新会員】

<個人会員>

奥田 阿子（長崎大学）

丸尾 加奈子（福岡大学）

育学会ファウンダー）

演題： グローバル化時代で益々重要性が増した英語教育-モチベーションを高める方策でどこまで学習効果が上がるか-

参加費： 無料

【2012 年度秋季学術講演会】

以下の日程で 2012 年度秋季学術講演会が開催されます。講演会終了後、懇親会を予定しております。詳細につきましては、決まり次第支部 HP に掲載いたします。

日時： 2012 年 12 月 1 日(土) 15 : 30 ~
17 : 00

会場： 西南学院大学 2 号館 大会議室

<http://www.seinan-gu.ac.jp/campusmap.html>

講師： 小野 博先生（福岡大学・昭和大学客員教授，日本リメディアル教

【第 43 回支部大会】

第 43 回支部研究大会が以下の日程で開催されます。

期日： 2013 年 6 月 8 日（土）

会場： 西南学院大学（福岡県福岡市）

大会テーマ：(仮)「コーパスと英語教育」

口頭発表受付:2013 年 1 月中旬より(予定)

【第 53 回全国大会】

第 53 回 LET 全国大会が以下の日程で開催されます。

をご覧ください。

期日：2013 年 8 月 7 日（水）から 9 日（金）

会場：文京学院大学（東京都文京区）

【第 54 回全国大会】

第 54 回全国大会は、以下の日程で九州・沖縄支部での開催となります。

期日：2014 年 8 月 4 日（月）から 6 日（水）

会場：福岡大学（福岡県福岡市）

【支部研究プロジェクト】

今年度の締め切りは 2013 年 2 月末日です。多くのプロジェクトの応募をお待ち申し上げております。詳細につきましては、支部ホームページのプロジェクトに関する規定

【会費納入のお願い】

2012 年度までの会費をまだ納入されていない会員の方は、お早めにお振り込みいただきますようお願いいたします（個人会員・団体会員は 6000 円、学生会員は 3000 円）。未納の状態が続く場合には支部からの発送物を停止させていただく場合がございます。支部の円滑な運営の為に協力をお願いいたします。なお住所・所属等に変更が生じた場合には、学会本部の HP より変更していただきますようお願い申し上げます。

【LET ホームページ】

＜LET 本部＞ <http://www.j-let.org>

＜LET 九州・沖縄支部＞ <http://www.j-let-ko.org/>

【LET 九州・沖縄支部事務局】

〒808-0135 北九州市若松区ひびきの 1-1

北九州市立大学 長 加奈子研究室内